

・・・編集後記・・・

思いがけないことに、奥宮編集委員長のご推薦で副編集委員長を拝命いたしました。よろしく願い申し上げます。また、昨年8月には第8回日本臨床検査学教育学会学術大会(岩谷良則大会長)の学会事務局をさせていただき、会員校の先生方の多大なご支援を賜り無事に終えることができました。あらためてお礼申し上げます。

本号は、その第8回日本臨床検査学教育学会学術大会での講演、シンポジウム、セミナーを特集しております。当日ご講演をお願いした上に、改めて本号のための原稿をご執筆いただいた先生方、講演者のみなさま、ありがとうございました。さらに本号では大阪大学保健センターの瀧原圭子センター長と水田一郎先生に、大阪大学のメンタルヘルスをふくめた健康管理についてご寄稿いただきました。突然の原稿依頼にもかかわらず、ご多忙のなか快く時間を割いていただきましたので、会員校の先生方におかれましては、今後の学生指導のご参考のためにご一読をお勧めします。そして本誌の企画・編集・原稿依頼(そして督促?)を常に誠実かつ着実にこなしてくださる奥宮編集委員長の奮闘にも、改めて敬意を表する次第です。

この編集後記を執筆中の1月下旬、大阪大学では修士論文の提出期限間近です。研究室(岩谷教授)の方針で修士論文は英語論文として投稿できる状態で提出することになっており大学院生の負担も大きいようですが、思い起こしますと彼ら彼女らが学部4年生として研究室に配属されたときには、英語論文をひとつ読むのに2週間以上かかっていた。むろん、実験なども独りででき

ないばかりか、そもそも何が分からないのかが分からない学生がほとんどでした。それが学部4年生と修士課程の2年間の計3年たちますと、私の知らない分野の英語論文を探し出してきて紹介し、実験過程で行き詰った問題を自分で調べて解決し、教員顔負けの学会発表資料をつくって口演や質疑応答を堂々とこなすようになりました。毎年、こういった学生たちの成長ぶりには驚かされます。そして先輩となった大学院生はやはり何もわからない後輩を指導していく過程で、さらに力をつけていきます。

大阪大学総長であった岸本忠三先生は素晴らしい業績を積み重ね文化勲章を受章された方で、現在も現役の研究者でいらっしゃるようですが、自分が生きている間だけの名誉ではなく、自分の生きた証を後世に残したいとおっしゃっておられます。そこで我々教員にとっての生きた証とは何かを考えたとき、そのひとつは、我々が指導した学生たちが成長して社会で末永く活躍し、さらにその経験を後世に伝えてくれることではないでしょうか。学生たちを受け入れた社会から感謝されるような「生きた証」が少しでも増えるようにしていきたいと考えながら、今年卒業・修了する学生たちを眺めているところです。

さて、我々教員にとって重要な今年の第9回学術大会は、昭和医療技術専門学校(山藤賢大会長)のもとで開催されます。多くの先生方が意見交換や議論を行える有意義な大会となれば幸いです。

(平成26年1月31日 副編集委員長 渡邊幹夫)

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部

編集委員会(平成25・26年度)

委員長：奥宮敏可(熊本大学)、副委員長：渡邊幹夫(大阪大学)、委員：井上聡子(東洋公衆衛生学院)、
今井 正(香川県立保健医療大学)、高岡榮二(高知学園短期大学)、山内一由(筑波大学)

臨床検査学教育 第6巻 第1号

平成26年3月1日 発行

発行人：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
理事長 戸塚 実

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
生体検査学専攻内

Tel. 080-8914-3214

e-mail: nichirinkyo@toyo-college.jp

http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail: edit@jamte.org

制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船 3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770

広告取扱社：(株)東広社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-3-8

Tel. 03-3409-8803